

2025 年度 第 1 四半期決算説明会 主な質疑応答

日時:2025 年 7 月 31 日 (木) 16:00～17:00

全体

Q: 1Q の社内計画比は。

A:

- ・売上高は 2 桁億円の上振れ。営業利益は数十億円の上振れ。

Q: エネルギー、インダストリーの 1Q 受注高は計画に対して上振れているのか。

A:

- ・エネルギーは 1 桁%の上振れ。若干の時期ズレはあるものの、発電プラントや施設・電源システムで上振れている。
- ・インダストリーは IT ソリューションで大きく上振れている。IT ソリューションを除くと、FA コンポーネント、オートメーション等で 10%程度の上振れ。

Q: エネルギー、インダストリーの受注好調の継続性は。下期業績予想を修正しない理由は。

A:

- ・1Q の状況を踏まえると好調な受注は継続すると見ている。一方、当社の事業は、お客様の投資タイミングが期末に偏る傾向がある。とりわけ今年度は米国の相互関税影響等もあり、お客様の投資判断をしっかりと精査する必要があると考えている。
- よって、下期は期初の業績予想を据え置いた。

エネルギー

Q: 1Q 営業利益率が対前年で改善した理由と継続性は。

A:

- ・ものづくりにおける原価低減や生産性向上が主因。また、今期の売上は過年度に受注した案件が中心だが、工期短縮の取り組みや原材料価格高騰も含めた価格提示の成果が出ている。
 - ・今期の受注も上記の取り組みが継続できており、売上と共に利益率は維持できると考えている。
- 今後も原材料価格高騰影響の懸念はあるが、引き続き、ものづくりでの改善に取り組む。

Q: エネルギーマネジメントの 1Q 売上高が対前年 23%増となった要因と継続性は。

A:

- ・変電システム分野における電力、産業、鉄道地上変電向けの需要が好調に推移し増収となった。
- 今後も好調な受注が売上に繋がるため、堅調に推移する。

Q: データセンター向け受注状況は。また、中長期的な受注見通しは。

A:

- ・アジア市場は好調な受注が継続している。一方、国内市場は、外資系企業の投資が継続しているものの、海外メーカが参入してきており、受注競争が厳しくなっている。
- ・中長期的には、北米市場での事業展開に向けて準備している。

Q:施設・電源システムの今期売上見通しは。

A:

- ・2Q は、3Q からの案件前倒しを含めて、対計画増収。
- ・上期は、対前年で増収の見通し。
- ・下期は、9 月までの受注状況を踏まえて精査する。

インダストリー

Q: 1Q の売上高・営業利益が計画比で上振れた要因は。

A:

- ・主要因は IT ソリューションによるもの。文教向け(セカンド GIGA)も含めて大口案件の刈り取りができた。営業利益の上振れ要因は、半分は増収、もう半分は昨年度から取り組んできた粗利改善の成果によるもの。なお、IT ソリューションはセカンド GIGA が前倒しで進捗しており、年間を通して上振れとなる見込み。

Q: FA コンポーネントの今期計画のハードルは高いが、1Q での進捗は。

A:

- ・受注高は、計画に対して先行受注も含めて 10%程度上振れた。
- ・売上高は、欧州向け計測機器やインド向け小型電源が好調に推移し、海外を中心に若干上振れた。
- ・営業利益は、計画比で若干上振れた。

Q: 米国でのオートメーションの事業機会、課題は。

A:

- ・一番の事業機会は、高圧インバータの拡販であり、LNG を含めたパイプラインへのニーズがあるとみている。
- ・課題は、中国メーカーとの競争になる。当社は 30%コストダウンした新機種の開発を進めており、来年度以降に米国での拡販を目指したい。

Q:オートメーションの一過性費用の規模感は。

A:

- ・約 10 億円。

半導体

Q: 受注の 1Q 対計画および 2Q 対 1Q 見通しは。

A:

- ・産業の 1Q は中国政府の補助金政策を背景に再エネ向けを中心に需要が好調に推移した。2Q は再エネ向け需要がもう少し続く見通しであり 1Q 並みに推移する見通し。
- ・電装の 1Q は 2Q からの前倒し影響を含めて増加した。2Q はお客様の在庫調整および需要減少により対 1Q で 5~6%程度減少する見通し。

Q: 下期の需要見通しは。

A:

- ・産業は、FA 向けの需要の戻りや、中国政府の補助金政策終了の影響を注視する必要があると考えている。
- ・電装は、SiC の売上が対上期で増加するとともに、お客様の在庫調整が和らぐと見ており、IGBT も対上期で増加する見通し。
- ・産業・電装ともに、上記を踏まえた業績影響を精査する。

Q: 富士電機を取り巻く市場環境は米国の関税引き下げや BEV 優遇の廃止等、足元で好転方向と考えているが、半年・1 年先の見通しは。

A:

- ・下期は欧米顧客の業績悪化影響が出る可能性があるものの、ハイブリッド車向けの需要は当初計画よりも若干上振れる見通し。総じて当初の見方から大きな変化はないと考えている。

以 上